

## 2009年6月の東北地方の天候

### 【6月の特徴】

○上旬・中旬の寡照、下旬の多照

○中旬の東北北部の低温、下旬の高温

#### (1) 2009年6月の概況

上旬・中旬は低気圧や気圧の谷の影響により、曇りや雨の日が多く、特に湿った東よりの風の影響を受けた東北太平洋側を中心に日照時間は少なかった。一方、下旬は梅雨前線が本州の南海上に停滞し、高気圧におおわれ晴れの日が多く、日照時間はかなり多かった。また、気温は、中旬は寒気やオホーツク海高気圧からの冷たく湿った北東風の影響により、東北太平洋側北部の沿岸部を中心に低温となったが、下旬は暖かい空気におおわれたため、顕著な高温となった。

東北南部は10日ごろ、東北北部は11日ごろ梅雨入りしたと見られ、平年と比べて東北南部は平年と同じ、東北北部は1日早い梅雨入りとなった（速報値）。

月平均気温は東北地方で高い。月降水量は東北北部で平年並、東北南部で少ない。月間日照時間は東北北部で少なく、東北南部で平年並。

#### (2) 各旬の天候経過

**上旬**：この期間、低気圧や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多く、東北日本海側を中心に日照時間は少なかった。5日から7日にかけては、日本の南岸にあった低気圧が発達しながら三陸沖を北上した影響により、東北太平洋側で大雨となったところがあり、岩手県では浸水害や山がけ崩れ害が発生した。

平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北日本海側で少なく、東北太平洋側でかなり多い。日照時間は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で少ない。

**中旬**：この期間、気圧の谷や寒気、湿った東よりの風の影響により、東北太平洋側や東北北部を中心に曇りや雨の日が多く、低温となった。特に、オホーツク海高気圧からの冷たく湿った北東風の影響を受けた東北太平洋側北部の沿岸部では顕著な低温、寡照となった。一方、東北日本海側では晴れの日もあった。11日は日本海低気圧と三陸沖の低気圧の影響により、東北日本海側を中心にまとまった雨となった。

平均気温は東北北部で低く、東北南部で平年並。降水量は東北地方で平年並。日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側でかなり少ない。

**下旬**：期間のはじめと終わりは低気圧や梅雨前線の影響により、曇りや雨の日があったが、その他の日は梅雨前線が本州の南海上に停滞し、高気圧におおわれ晴れの日が多くなった。また、暖かい空気におおわれたため、期間の中頃からは晴れて気温の高い日が続き、新庄と酒田で6月としての日最高気温の高い方からの極値を更新するなど、顕著な高温となった。

平均気温は東北地方でかなり高い。降水量は東北地方で少ない。日照時間は東北地方でかなり多い。

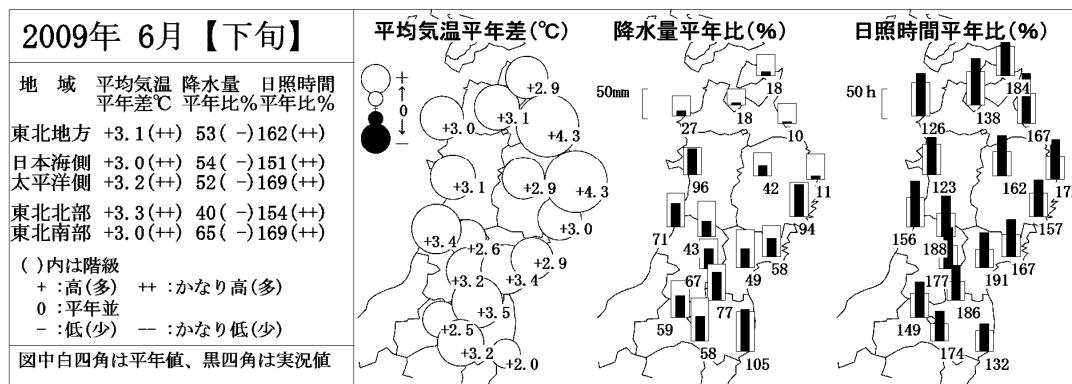
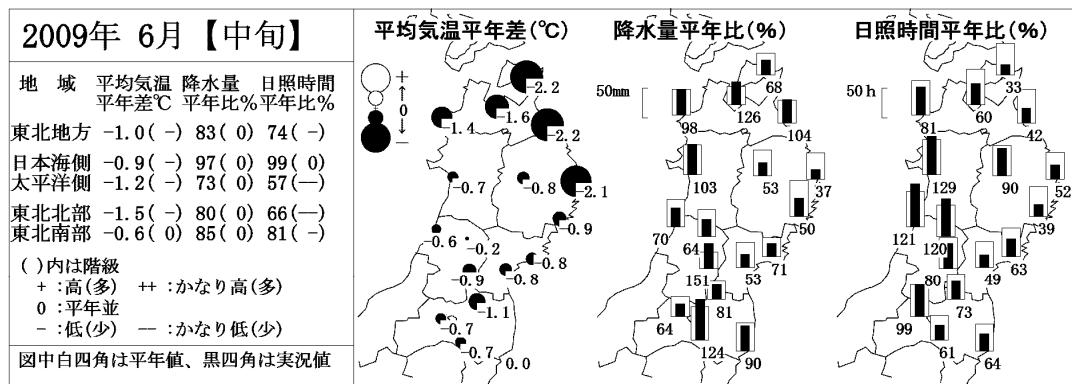
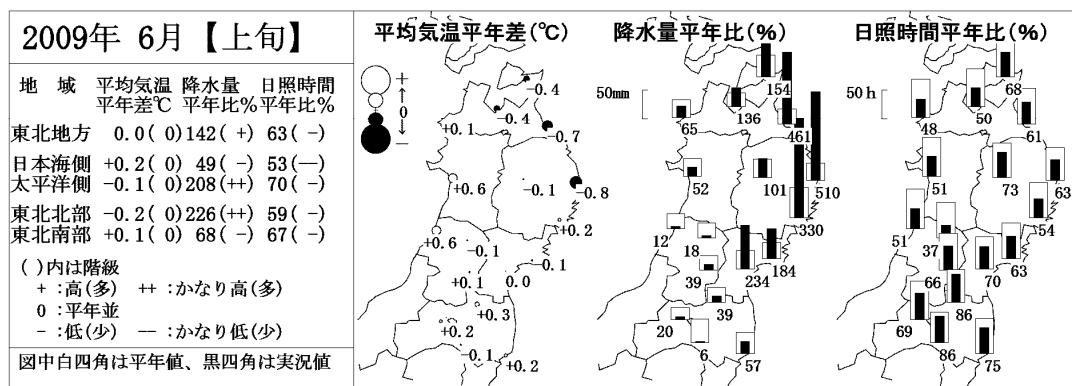
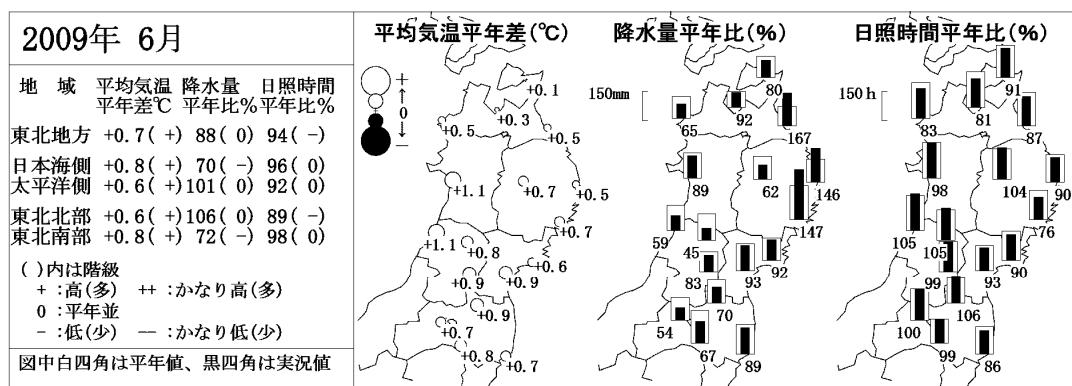
(注) 気候統計値は、東北地方にある17地点の気象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。

細分地域については2ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は1971-2000年です。階級区分については、3ページ目脚注2を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区気象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2009年6月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971～2000年。

(注) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

#### (4) 2009年6月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差)		階級	降水量(平年比)		階級	降水日数	日照時間(平年比)		階級
	(°C)	(°C)		(mm)	(%)			≥1mm	(h)	
青 森	17.3	( +0.3)	+	76.0	( 92)	○	7	146.6	( 81)	—
深 浦	17.7	( +0.5)	+	71.5	( 65)	—	8	149.8	( 83)	—
む つ	15.7	( +0.1)	○	87.5	( 80)	○	7	148.4	( 91)	○
八 戸	16.6	( +0.5)	○	165.5	(167)	+	7)	146.2	( 87)	—
秋 田	19.9	( +1.1)	+	113.0	( 89)	○	8	175.0	( 98)	○
盛 岡	18.9	( +0.7)	+	71.0	( 62)	—	8	157.4	( 104)	○
大 船 渡	18.0	( +0.7)	+	252.5	(147)	+	12	113.2	( 76)	—
宮 古	16.5	( +0.5)	+	171.5	(146)	+	10	126.7	( 90)	○
仙 台	19.2	( +0.9)	+	128.0	( 93)	○	11	118.5	( 93)	○
石 卷	18.3	( +0.6)	+	103.0	( 92)	○	10	130.7	( 90)	○
山 形	20.4	( +0.9)	+	85.5	( 83)	○	11	152.4	( 99)	○
新 庄	19.5	( +0.8)	+	59.5	( 45)	—	6	160.7	( 105)	○
酒 田	20.4	( +1.1)	+	75.5	( 59)	○	7	184.1	( 105)	○
福 島	20.8	( +0.9)	+	82.5	( 70)	○	11	138.5	( 106)	○
若 松	20.5	( +0.7)	+	62.0	( 54)	—*	9	157.5	( 100)	○
白 河	19.2	( +0.8)	+	113.0	( 67)	—	12	120.3	( 99)	○
小 名 浜	19.0	( +0.7)	+	133.0	( 89)	○	12	118.7	( 86)	—

(注) 1. 平年値は1971～2000年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+:高い(多い) ○:平年並 -:低い(少ない)

各階級の区分値は、1971～2000年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めた。

また、値が1971～2000年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+」に\*を付加した。この場合には

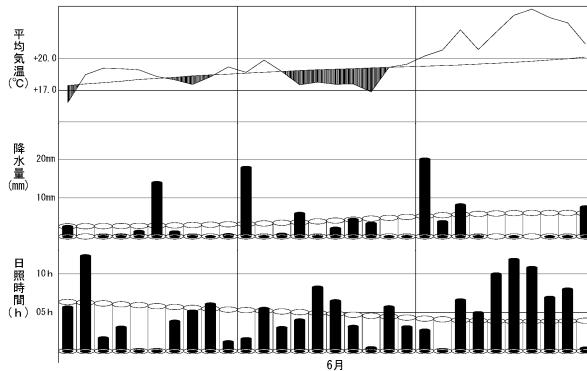
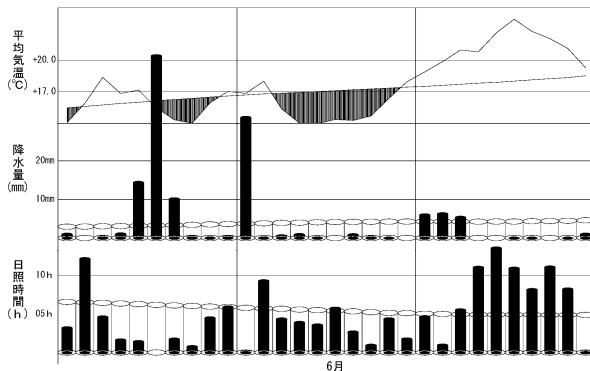
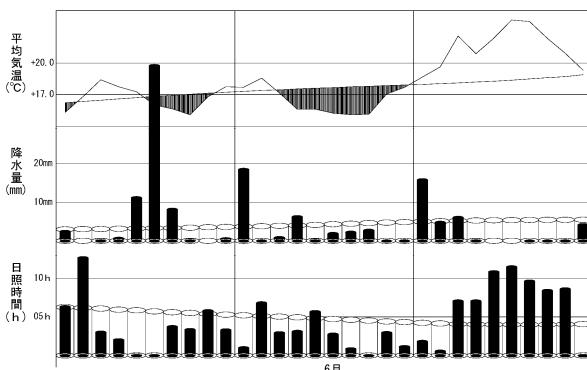
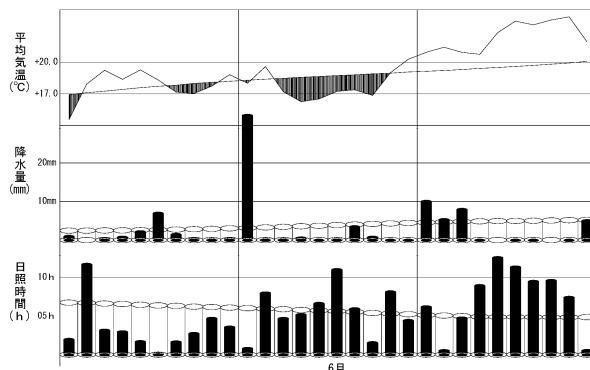
かなり高い(多い) かなり低い(少ない)

と表現できる。

3. 値の横に)や]がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが]付きの値(資料不足値)については、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

## (5) 2009年6月の日別経過図



## (6) 2009年6月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新  
3位以内はなし

月平均気温低い方からの順位更新  
3位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新  
3位以内はなし

月降水量少ない方からの順位更新  
3位以内はなし

月間日照時間多い方からの順位更新  
3位以内はなし

月間日照時間少ない方からの順位更新  
3位以内はなし

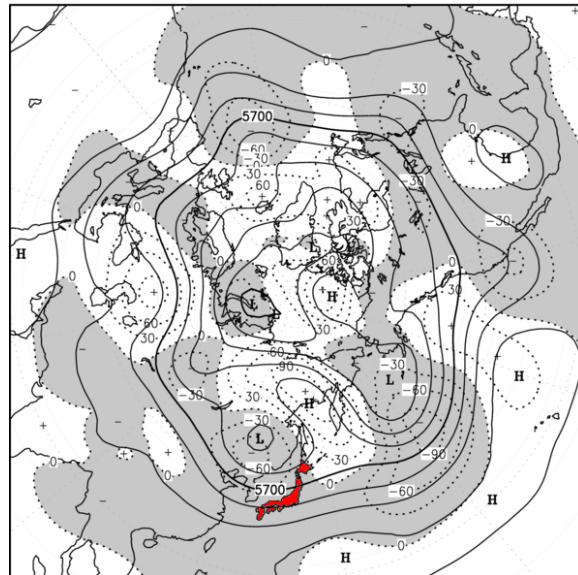
(注) 平年値とは1971～2000年の30年間の値を平均したものである。

## (7) 2009年6月の循環場の特徴

500hPa 高度の月平均では、オホーツク海北部で等高度線が北に大きく蛇行し、顕著な正偏差となった。一方、中国東北区は気圧の谷となり、日本付近にかけて負偏差となった。これらはオホーツク海高気圧の発生や気圧の谷が北日本を頻繁に通過したことに対応している。

また、日本の南海上は負偏差域が広がっており、太平洋高気圧の北への張り出しが平年より弱く、梅雨前線が平年より南に位置したことに対応している。

日本付近は西谷傾向で、下旬に暖かい空気が入りやすかったことに対応している。



2009年6月の平均500hPa高度

実線は等高度線：60m毎、点線は偏差：30m毎

陰影部は負偏差（寒気に対応）

## (8) 2009年の梅雨入りの状況（速報値）

■ 平成21年の梅雨入り（速報値）

地方	平成21年	平年差	昨年差	平年	昨年
沖縄	5月18日ごろ	10日遅い	4日早い	5月8日ごろ	5月22日ごろ
奄美	5月18日ごろ	8日遅い	4日早い	5月10日ごろ	5月22日ごろ
九州南部	6月9日ごろ	11日遅い	12日遅い	5月29日ごろ	5月28日ごろ
九州北部	6月9日ごろ	4日遅い	12日遅い	6月5日ごろ	5月28日ごろ
四国	6月9日ごろ	5日遅い	12日遅い	6月4日ごろ	5月28日ごろ
中国	6月9日ごろ	3日遅い	12日遅い	6月6日ごろ	5月28日ごろ
近畿	6月9日ごろ	3日遅い	12日遅い	6月6日ごろ	5月28日ごろ
東海	6月9日ごろ	1日遅い	12日遅い	6月8日ごろ	5月28日ごろ
関東甲信	6月10日ごろ	2日遅い	12日遅い	6月8日ごろ	5月29日ごろ
北陸	6月10日ごろ	同じ	9日早い	6月10日ごろ	6月19日ごろ
東北南部	6月10日ごろ	同じ	12日早い	6月10日ごろ	6月22日ごろ
東北北部	6月11日ごろ	1日早い	12日早い	6月12日ごろ	6月23日ごろ

(注) 梅雨は季節現象であり、その入り明けは、平均的に5日間程度の「移り変わり」の期間があります。ここに掲載した期日は移り変わりの期間の概ね中日を示しています。

「平年」は、平成12年(2000年)までの過去30年の平均(入り・明けを特定しなかった年は除外)の日付です。